

国境を越える心と心

小五

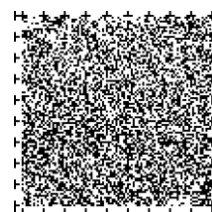
「韓国人のくせに。」

私が転校して間もなく、こう言われることが何度かありました。その時私は、ドキツとし、日本人なのにどうしてと思いました。

私は幼稚園の年中から小学二年生の時まで、お父さんの仕事の都合で、韓国に住んでいました。日本に帰国することが決まった時は、四年ぶりだったので、日本にもどるのをとても楽しみにしていました。そして、初めてA小学校に来て、全校の前で日本語と韓国語で自己紹介をしました。韓国でやっ

と覚えた韓国語をみんなに聞いてほしいなと思ったからです。そのことがきっかけで、韓国人と言われてしまうのかなと思いました。

私は、韓国人と言われる時いやだなという気持ちよりも、韓国の人に少し悪いなという気持ちになりました。そして、私が初めて韓国へ行った時のことを思い出しました。それは、日本とは言葉も食べ物もおいもみんな違って、いやだなと思ったことです。特に、言葉が分からなかったので、韓国人の幼稚園の先生を怖く感じました。私はなかなか先生になじめませんでした。韓国人の先生は、日本語も話せたので、ふだんは日本語で話してくれました。



でも、先生どうして話す時には韓国語
だったので、私のことを悪く言ってい
るのではないかと心配になったり不安
になったりしました。しかし、今思う
と、それは私のかん違いでした。後に
なって先生から、私がなじめず、自分
のからに閉じこもり、心を開かなかっ
たので、困っていたと聞きました。先
生には、いつも優しくしてもらったり
たくさん楽しく遊んでもらったりしま
した。

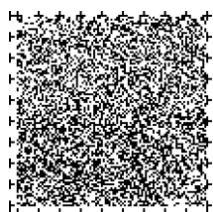
そうして、一年がたつころには、韓
国での生活にも慣れました。韓国語も
何回も書いたり読んだりしてがんばっ
て覚ええました。少しずつわかるよう
になって慣れてくると「住めば都」で、
ここが一番よい場所だと思えるように

なってきました。

韓国のよい所もどんどん見つけられ
るようになりました。電車の中で私が
立っているのと、知らないおばさんが
「おばさんのひぎに乗ってもいいよ。」
と声をかけてだっこしてくれたり、公
園で遊んでいると

「おながが空いているでしょう。」
と言って、たい焼きやおかしをくれた
りしました。初めはびっくりしたけれ
ど、韓国の人は、自分の子どもや孫に
接するようには、知らない子どももかわ
いがるのです。

さらに、韓国では、うれしい時は大
喜びをしたり、悲しい時は大
泣きしたり、おこるときは目
を三角にしてさげんだりしま



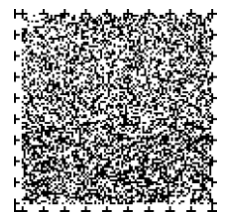
す。気持ちをはっきり表すことは、私も韓国にいたので、いやではありません。けれども、日本では、ついみんなの目を気にしてしまったり、はずかしく感じたりして、思ったことが言えない時もあります。しかし、私はたとえみんなとちがった意見でも、自分の考えを前より言えるようになりました。

私は、韓国に行く前の自分と、帰ってきてからの自分とは、外国人や物事に対して感じる気持ちが変わったと思います。それは、日本を出て、日本ではない国で生活し、日本人とは違う人たちがいて、違う考え方やくらしがある、と知ったからだと思えます。そして、みんなそれぞれよさがあることもわかりました。

でも、日本に帰ってきて、やっぱり日本が一番いいなと思えます。

それは、自分が生まれた国だからです。国境を越えても、みんな同じ人間で、みんな仲間だということ、私はもつともっと多くの人に知ってほしいと思います。そして、日本が大好きだから、日本のみんなが他の国のことを分かってくれるといいなと思います。

これらの経験を通して、私は、自分の夢をはっきりとふくらませることができました。それは、国境を越えて人と関わっていける医師になることです。日本だけでなく外国の人や今までお世話になった人たちにも恩返しをしたいと思えます。国境を越えて心と心が通



じる医師になり、みんなを元気に、そ
してみんなを笑顔にしたいです。

